

【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

誰でもすぐに名ガイドヘルパー

木野 登紀子

【推進員認定期】第2期 【所属】いどばた(視覚障がい者) 【活動エリア】県域(東武東上線沿線が中心)

学習対象者	小学生(年生) 中学生 高校生 住民(これから視覚障がい者と関わりたい人) その他
内 容	障がい理解(車いす体験、アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、その他()) 高齢者理解(高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他()) その他の理解()
所用時間	1回あたりの時数：2時間程度
ねらい	一人ひとりみんな違うサポートの仕方があり、その人にあったその人が望むガイドをすることが大切。決してガイド者の手法を押し付けない。 だから、安全に依頼者の目的が達成できれば、手法はこだわらないということに、気付いてほしい。

はじめに

今後、視覚障害者と共に活動しようという晴眼のボランティアさんに、短時間で確実に、そして誰にでも簡単にサポートできるという自信を持って頂ける方法とは考えた結果が、ワンツーマンの講習会でした。町に出て、買い物をしておしゃべりをしながら、楽しくすぐに使えるガイド法。そして、福祉の基本である「一人ひとりみんな違う」ということを認めて、共に生きることの大切さも気付いて頂く。そんな欲張りのメニューに挑戦しました。

実践内容

視覚障がい者のサークル「いどばた」の開催日に、ガイドの講習をしてほしいという住民10人が対象。
「いどばた」メンバーの視覚障がい者の仲間たちが協力

Ⅰ ガイドのペア体験(1時間)

若葉ウォーク内の施設(階段、エスカレーター、エレベーター等)を使い、昇降や買い物体験をする。
ガイドの基本の習得

ガイド法だけでなく、視覚障がい者と接する時の心構えや注意点も伝授する。

ガイドするのは、一度もガイドヘルプをしたことのない初心者である受講者

[2 ガイドヘルプ初体験の発表の共有]

本実践のねらいにある「一人一人みんな違うサポートの仕方があり、手法はこだわらない」ということに気づいてほしい。

ここがポイント！

講師となる視覚障がい当事者は、常に歩いている、活動している人で、相手にものを伝えることを得意でなくても、不得意ではない人を選ぶ。

初めて体験する受講生には、自信をなくするような言動は決して行わないように、講師には事前レクチャーをしっかりと行うこと。

振り返りと共有をしっかりと行い、「楽しかった」、「一緒に歩きたい」、「私でもガイドできるよ」などの、受講者の次回への意欲を引き出して、次につなげることが重要。

ガイド初体験後の感想発表では、十人十色の感想があった。また、誰一人同じ人はいないのに、誰も不安に思わなかったようであった。「一人ひとり違うサポートがあり、その人が望むガイドをすることが大切」ということに気づいてくれたようであった。

成果と課題

[成果]

ガイドの仕方(車いすも同じ)を全く知らない街角であった人に、サポートを依頼しても、自分がリードすれば安全であり、全く問題もなくサポートが受けられるということの立証になった。体験者だけでなく、当事者の私たちにとっても、この講習から得るものは多くあった。

よく聞く当事者の声としてこんな声がある。

「ある日、通りがかりの人にガイドをしてもらったのですが、なんと、腰は持たれる、手はしっかり握られる。それが中年の男性なら、女性はなおさら複雑。でも、相手のご厚意と断ることもできずに、泣く泣く時のすぎるのを待った…」

そんな時は、自分がリードすればそんな思いをすることはしないのではないかな？

「すみません、肘を貸してください。そして、前を歩いてくだされば、安心してついていけます。階段やエスカレーターになった時には、教えてください…」と。

たったこれだけでも、相手も自分も嫌な思いになることはない。お試しあれ。

[課題]

時間数がもう一単位(2時間))追加して食事と一緒にできたら、さらに自信を持ってガイドをする勇気が出たのではと思う。